

申込みましたか？ 子宮がん・乳がん検診

■申込み・お問い合わせ
保健福祉課保健・介護グループ
総合福祉センター「ハピネス」
☎・☆4-33356

ハピネスで同日実施は
年1回です

女性が増えている病気は、出産数が減少したことや月経回数が増えたことによる婦人科疾患です。例えば、子宮内膜症、子宮筋腫、卵巣のう腫、卵巣がん、子宮体がんなどです。これらは産婦人科で超音波検査を定期的に受けることで早期発見でき、体調不良や妊娠トラブルの予防にもなります。「わかっていても自覚症状がないうちから、産婦人科に行くことは勇気がいる。」と相談にいられた人と言われたことがあります。確かに子宮がん検診も乳がん検診も検査を受けることに、恥ずかしさや不安感など精神的な負担を伴う人もいらっしゃるかと思えます。

町では受けられる人の負担感を少しでも減らすために、病院に行かなくても身近な場所です。一度に両方の検査が受けられるように、子宮がん・乳がん検診を同日実施しています。検診機関にはできるだけ女性のスタッフに来ていただけるようお願いしています。

また、定期的に検診を受けられる皆さんからは、「受けたいわけではないけど、自分のためだから受けた方が安心だよ」という声を聞きます。知らないうちに病気が進行してしまふことよりも検診を受けることで早く見つけられる方が安心できるそうです。より受けやすい体制を整えていけるようにしていきたいと思えます。

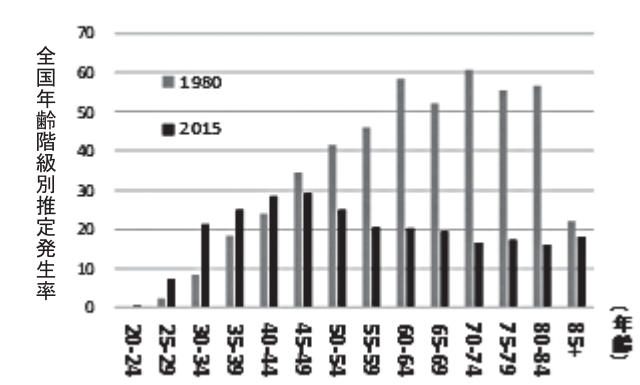
自覚症状が出る前に見つけたいがん

日本人女性がかかるがんの中で最も多いのは乳がんです。また、子宮がんでは低年齢化が進み25歳から44歳の罹患率は増えています(図1)。

乳がん・子宮がんは、がん細胞が増殖し始めても、自覚症状はほとんどありません。自覚症状が出るのは、がん細胞が増え、体に害を与え始めてからがほとんどです。乳がん検診では、触れるだけではわからない段階のがんや、しこりとして現れないがんも発見できます。子宮がん検診では、がんになる前の「前がん病変」や初期のがんなど、自覚症状がない段階も発見することができません。

実際元気で、検診は面倒だったけど、無料なら受けようかと受けたら、再検査、治療が必要な病気が見つかったという人もいます。早期発見・治療ができるよう定期検診を受けることは、あなたの体と未来の生活を守ることに繋がります。

図1 子宮頸がん発生の若年化傾向



乳がん検診

マンモグラフィ(乳房のレントゲン写真)をとります。乳がんを早期に見つけるためには、乳がん検診を受けることに加えて、毎月1回自分で乳房を見て触る「自己検診」も大切です。40歳からは2年に1回、乳がん検診を受けましょう。

子宮がん検診

子宮がん検診は、子宮けい部の細胞を検査します。閉経後で不正出血のある場合には、体部(内膜)の細胞を検査します。20歳からは2年に1回、子宮がん検診を受けましょう。

また、女性が増えている病気を見つげるために、子宮や卵巣の状態をみる超音波検査は、子宮がん検診とあわせて申込みすれば同時に受けることができます。

個別検診について

旭川がん検診センターで、個別に受けることもできます。また、日曜日に行われる「日曜がん検診」もあり、9月18日、10月16日、12月4日、2月12日、3月26日(日)ので、お仕事などで平日のご利用が難しい人にお勧めです。旭川がん検診センターに直接お問い合わせ、お申込みをしてください。

旭川がん検診センター
予約専用フリーダイヤル
0120-0972-489



■集団検診日程

検診日	検診会場	乳がん検診 (40歳以上)	子宮がん検診 (20歳以上)
9月15日(木)	総合福祉センター「ハピネス」	●	●
11月25日(金)	旭川がん検診センター(バスツアー)	●	●

- *バスツアーは、午前7時30分に旭川がん検診センターのバスで下川を出発し、午後1時~2時頃に下川に帰って来ます。
- *旭川がん検診センターで骨粗しょう症検診を受けることもできます(足のかかとの超音波検査で、料金は1,050円です)。

■検診料金

検診内容	対象者	後期高齢者医療被保険者		
		一般	国保	
乳がん検診	一方向 50歳以上	1,700円	900円	600円
	二方向 40~49歳	2,000円	1,000円	
子宮がん検診	頸部 20歳以上	1,800円	900円	600円
	体部 閉経後、不正出血等のある人	800円	400円	300円
子宮・卵巣の超音波検査	20歳以上	どなたも1,100円		

お得な無料の機会に受けましょう

今年度、次の年齢の人にがん検診無料の案内文を郵送しています。検診の申し込みをして、検診当日にご持参ください(紛失した場合は、再発行しますのでご連絡ください)。

- ◆乳がん検診…40歳・41歳・46歳・51歳・56歳・61歳になる人
- ◆子宮がん検診…20歳・21歳・26歳・31歳・36歳・41歳になる人

体外受精などの不妊治療が保険適用されたことに伴い、不妊治療支援事業の助成内容が変わりました

不妊治療を希望しているご夫婦の心身及び経済的負担の軽減を図るため、次のとおり治療の一部を助成します。治療を受けられる前からの相談なども行っています。

保険適用となる一般不妊治療および生殖補助医療に伴う自己負担額の2分の1かつ1回あたり15万円を限度として助成します。

年齢及び回数が保険適用外となった保険適用と同様の治療についても、保険適用の要件を満たす医療機関での治療は対象となります。

